

(別紙2) 第6次塩竈市長期総合計画進捗報告会 自由記載

1.しおがま未来創生プロジェクト・成果指標について

1	個別事業の評価にも書きましたが、隣接計画（部課）とのまきこみ連携（横串）が弱いのでは？ 資料1P5の「好循環」は実現できるのだろうか？仕組化されているのだろうか？本気度は？と思いました。 塩竈市でもPPP方式の研究を進めてはどうか。 空き店舗のテナントミックスや施設整備（参考事例として岩手県紫波郡紫波町のオーガル）
2	数値指標から見る限り、各施策は概ね順調に進捗しており、これまでの取組の成果が着実に現れているものと評価できる。 今後の計画推進においては、住民や来訪者の理解と参画が重要な鍵となるが、それと同様に行政職員の意識共有も不可欠である。職員一人ひとりが計画の内容や目標を定期的に確認し、その実現を意識しながら業務に取り組むことで、計画の実効性をより一層高めていくことが期待される。
3	全体的に見て着実に成果が伺える。「塩竈市への愛着・誇り」が70%、中でも「すみよさ」「やりがい」の高さは評価している。一方で、「にぎわい」の低さは寂しい。塩竈だけの事情ではないかもしれないが、一層の奮闘を期待する。産業観光振興や交流人口の拡大でよりインパクトのある取り組みをお願いしたい。 個別の成果指標で特筆すべきは、プラス面が待機児童数、自殺死亡率、家庭ごみ排出量、ふるさと納税寄付者、歴史文化の満足度、浦戸の地域おこし協力隊、島外客など。 逆に懸念するマイナス面は子育ての満足度、民生委員充足率、水産品輸出货量、観光客数、市民図書館満足度など。
4	設問に回答するときは思っていることよりも上に評価をしがちなので、実際はこの数値より低いと思いますので、目標値をはるかに超える数値が好ましいと思う。そのためにも塩竈らしい100の暮らしなどをもっと配信し、多くの方々に参加してもらい、実績値を上げるべきだと思う。
5	・No.2-6について、長い目でみて医療保険及び介護保険等を減少させる目的でインセンティブを設け、受診率を上げ、予防に力を入れることも良いかと考える。 ・No.2-10について、昨年度に比べ、減少率が高く見受けられた。全国的な問題であり、塩竈市に限る話ではないと思うが、市町村ごとに対策をしているようなので、取組みがあったら是非来年度の報告でお伺いしたい。 ・No.3-8について、昨年度と比較し、大幅な増加が見られ、伊保石公園の民間アトラクション施設の効果かと思います。誘致の効果がはっきりと見受けられとても素晴らしいものだと感じる。 ・分野5についてはいずれも目標値を上回る結果が見受けられます。休日のイベント等であっても役所の皆様をお見かけすると、いつも丁寧な活動をされていた結果かと思う。これまでの地道な活動に感謝する。 ・No.8-7について、毎年着々と増加していて素晴らしい。

2.塩竈らしい100の暮らしについて

1	未実施項目に積極的に取り組んでほしい。 No.31に記載のある関連事業について「啓蒙」⇒「啓発」では？市民の生の声をもっと反映してほしい。現場密着の市役所組織※アンケート調査は二次情報で鮮度（解像度）が落ちる。
2	「100の暮らし」は、塩竈市総合計画の大きな特徴であり、他自治体には見られない独自性の高い取組である。市民の声を収集し、多様な暮らしの姿を「100の暮らし」として可視化した意義については、改めて共有していくことが重要である。 また、それぞれの「暮らし」に対して関係する部署や施策を整理し、進捗や成果を評価している点は高く評価できる。一方で、現状では各施策を「100の暮らし」に単純に対応付けているだけのようにも見受けられる。 本来、「100の暮らし」は計画を評価するためだけのものではなく、施策の企画・立案や事業の実施において、市民の視点を反映させるための指針として活用されるべきものである。職員が施策を推進する際に、「この取組はどのような暮らしの実現につながるのか」を意識しながら活用することで、その価値はさらに高まると考える。 多くの時間と労力をかけ、市民との協働によって作り上げたことを踏まえて、評価の枠組みにとどまらず、日々の行政運営や政策形成の場面において積極的に活かしていくことを期待したい。
3	77%の実施項目数は、「驚くべき」高い数値だと思う。 関係者の努力と着実かつ、綿密な取り組みと分析に敬意を表す。 ただ、例示された「100の暮らし」には、シンボリックな意味合いや特定、特化されたものもあると思うので、未実施事業のなかで、例えば、「子どもだけの秘密の国」「後援でヨガや太極拳」「家族でバーベキュー」「麻雀をしに街に」「路上でのパフォーマンス」など必ずしもすべての事業化にこだわる必要はないと思います。

4	実績値が77%と高数値である。市民の方々に考え、作られたものなので、今後も継続して進めていくべきであり、1度や2度ではなく、精度を上げながらよりよい実施を求めたい。そこからシビックプライドに繋がると考えます。
5	1.しおがま未来創生プロジェクト・成果指標の内容と同様。

3.個別事業

No.1 〔分野1〕 学校規模の適正化の検討事業

1	・統廃合跡の利活用？⇒放置するだけでも維持費。 ・節約できる経費の公開は？
2	学校再編に対する強い危機意識と、将来を見据えて着実に取り組もうとする意気込みが感じられた。 また、意見交換会を実施し、関係する市民の声を丁寧に聴取しながら検討を進めている姿勢は高く評価できる。学校再編は、地域住民はもとより、担当職員にとっても大きな負担と責任を伴う事業であり、その労力は十分に評価されるべきである。 一方で、学校再編は対象地域だけでなく、市全体の将来に関わる重要な課題でもある。そのため、意見交換会への参加者に限らず、より幅広い市民の意見を収集することが求められる。特に、パブリックコメントには十分な意見が集まらないことも多いことから、従来の手法に加え、デジタルツールの活用など新たな意見収集の仕組みを検討してもよいのではないか。多様な市民の声を把握しながら議論を進めることで、市全体としての納得感が醸成され、学校再編に対する理解と合意形成がより一層進むことを期待したい。
3	デリケートな問題が多く、慎重に積み重ねている合意形成の進め方は理解するし、その努力に敬意を表する。ただ、どこかで具体案の提示の時期を見極めなければならないし、その機を逃さないでほしい。建設費や跡地利用含め、建設的議論ができるのでは。
4	このまま意見交換を続けることも必要だと思うが、参加者の幅を広げることも必要だと思う。その内容もダイレクトに伝え、迅速に進めた方がよいと思った。
5	塩竈市の将来に向けた大きな動きであるため、もう少し予算等を割き、意見交換会の回数（特に保護者向け）の回数を増加させてもよいかと考える。 また、オンラインでの実施や、各校の授業参観等に開催を合わせるなど、小規模なものがあると忌憚ない意見が聞きやすいかと考える。

No.2 〔分野2〕 高齢者あんしん見守り支援事業

1	・「地域」と「民間事業者」を繋ぐ施策。NPO、ブラッシュアップ⇒他地域では市民カルテまで作成 ・民間事業者と連携した見守りについて、役割分担と全体のマップを。 ・配食サービスは貧困家庭の子どもとかけ合わせて、コストダウンを図るとともに、幅広に展開は出来ないか。
2	・従来の地域コミュニティによる見守り活動に加え、ICTツールの導入を試みている点は評価できる。令和7年度の実績は15件となっているが、導入件数そのものだけでなく、利用状況や効果を継続的にモニタリングしていくことが重要である。 ・ICT機器の活用であるから、稼働状況などのデータを収集できると考えられ、そうしたデータを活用しながら事業効果の検証を行うことが望ましい。その成果や利用者の声について積極的に周知することで、市民の理解を深めるとともに、利用者の拡大につなげていくことを期待したい。
3	・共助・公助を複合的に組み合わせた多彩な取り組みを評価する。一方で、高齢化社会の「キモ」は、高齢者を見守り、支援するだけでなく、高齢者の自立、自発的な社会参加を促せるかにもある。その本音、欲求を自然に引き出す仕掛けも欲しい。
4	近年の夏はとても暑いため、夏場の見守りに関しては頻度より増して、お金をかけて実施した方がよい。地域全体で見守りはとても良い。
5	高齢化が進行する中、老後を安心して暮らすことができる環境づくりは重要であると考ええる。 ただ、事業の周知については、ターゲットを高齢者本人だけにしないで行った方が効果的かと考える。 例えば、配食等であれば、本人が必要を感じることも多いが、安心見守り等については、どちらかというと周囲の親族等が必要を感じることも多いため、入退院時や介護認定等の、周囲に関わるイベントのタイミングで周知を行うことができるように関係各所と協力を行うことも良いかと考える。

No.3 〔分野4〕 門前町活性化事業

1	・水産加工業者を巻き込んだマルシェやメッセなど、塩竈市型のBtoBも検討してほしい。「食育と産業」について、ソフト面も含めた深堀をしてほしい。 ・浦戸との連携など、門前町以外との連動も重要になる。
---	---

2	<p>門前町活性化事業については、ほこみち制度の活用や拠点整備の方向性が具体化してきたことを高く評価したい。</p> <p>本事業は単に門前町エリアの活性化にとどまらず、塩竈市全体のにぎわいや魅力の向上につながる可能性を有している。</p> <p>特に、ほこみち制度の活用にあたっては、歩道空間において人々の活動や交流が見える場を創出することが重要である。例えば、芝生スペースや木製ベンチを配置し、子どもたちが遊び、市民や来訪者がくつろぎ、時には仕事や交流を行う姿が日常的に見られる空間となれば、自然と人が集まり、まちの魅力向上につながる。その結果、沿道店舗への来客増加や新たな出店意欲の喚起など、地域経済における好循環も期待できる。</p> <p>また、このエリアには歴史的資源をはじめ多くの魅力が存在するが、それらを網羅的に活用するのではなく、事業全体を貫く明確なコンセプトや軸を設定することが重要である。その方向性を十分に整理した上で事業を進めることが望ましい。例えば、市民の誇りとして受け継がれてきた「塩竈海道」の価値を現代的な視点で再解釈し、新たな交流や滞在、消費を生み出す空間として再生していくことも一つの方向性として考えられる。</p> <p>今後は、景観整備やにぎわい創出そのものを目的とするのではなく、それらを通じて新たな事業活動や雇用を生み出し、持続的な産業形成につなげていく視点を重視していただきたい。門前町の活性化が地域経済の活性化へと結び付き、塩竈市全体の発展を牽引する取組となることを期待したい。</p>
3	<p>施さないエリアに歴史のある神社、歴史的な建築物、ユニークな商店、名物のブランド店、整備された史跡など素材と条件はそろっており、市民の想いも共通。あとは実行あるのみ。小さなことでもまずは実践に移してほしい。</p> <p>NPOのボランティアガイドなどとの連携も。</p>
4	<p>ほこみちをきっちりと整備し、販売をどうやって門前町再生をしていくかが楽しみでもあり、カギになる。</p>
5	<p>「海と社に育まれる」の社を活用する事業であり、観光や商業等に深く関係するため、是非上手く軌道にのせていただきたい。</p> <p>また、新たな事業と合わせて、例えば神社から街にでる裏坂等について、夕方以降街灯が少なく真っ暗になってしまう等の、すでにある環境の改善についても合わせて進めていただきたい。</p>

No.4 【分野7】 塩竈市協働まちづくり提案事業

1	<ul style="list-style-type: none"> ・取組による成果として、市民の成長は見られるものか。あくまで主体は市民であり、行政はサポートである。 ・防災関連との関係はどうか。自治組織の高齢化に対して打開策になるかもしれない。 ・要支援者（介護者）なども巻き込めるような取り組みも考えられる。
2	<p>協働まちづくり制度は、地域コミュニティの維持や地域課題の解決に向けた取組を支える仕組みとして重要な役割を果たしていると評価できる。一方で、継続する中で制度の活用が固定化・形骸化する可能性もあるため、実施状況や成果を定期的に検証していくことが重要である。</p> <p>また、地域によっては申請書の作成や事業の企画立案に不慣れな場合も考えられる。制度を利用していない地域や活用が進んでいない地域について、その背景や課題を把握し、必要に応じてアドバイスを行うことが求められる。</p>
3	<p>評価に関わるものとして、率直な感想を。</p> <p>①町内会活動の実態（良さ）を理解できた。強制でも義務感でもなく、自然に主体的に、何より楽しく活動しているのがいい。</p> <p>②「継続は力」。3年間のフォローも、助成金額も絶妙に妥当。</p> <p>③同じ活動でも年々、工夫されブラッシュアップされている感がある。塩竈の「地域づくり」の底力を感じる。</p> <p>④よくあることだが、応募が「常連」に偏ってしまう傾向がある。市民により広くPR、啓蒙を。</p>
4	<p>町内会単位での活動が活気のある街づくりや高齢者のコミュニティとして身近で、かつ、必要性が高いと思う。助成額をうまく使い構築できるようなサポートも必要。</p>
5	<p>市民団体や町内会の結びつきは、分野7に関わらず市の根底となるものだと考えるため、有意義な事業であると考え。一方、この事業に応募できるだけの力のある団体への支援も重要であるが、そこに行きつくまでの団体の立ち上げからの活動についても、別枠等でサポートできるようなものが同時にあってもよいかと考える。</p>